

## 第2節 中高年層における自殺をめぐる状況

### はじめに

第1章で見たとおり、我が国の自殺者数は10年連続で減少となった。また、20歳以上の年齢階級別の自殺者数については、前年より減少しており、30歳代で11年連続、40～60歳代で10年連続の減少となった。この間、主に40～60歳代での減少が大きかった。

このため、昨年若年層について分析したこともあり、若年層以外の階層について、平成21年以降の推移<sup>1</sup>をみることにする。

当第2節は、中高年（40～44歳、45～49歳、50～54歳、55～59歳及び60～64歳の5階層）、第3節は、前期高齢者（65～69歳及び70～74歳の2階層）、第4節は、後期高齢者（75～79歳、80～84歳、85～89歳及び90歳以上の4階層）として、3つの区分についてみる。

## 1 中高年における自殺者数及び自殺死亡率について

### (1) 自殺者数

平成21年以降の中高年の自殺者数の推移をみると、21年の14,985人をピークに減少を続け、令和元年は8,206人となっている。この間6,779人（45.2%）の減少となった。全体の自殺者数も同様の傾向であり、平成21年の32,768人から、令和元年の19,974人へと、12,794人（39.0%）の減少となり、中高年が減少の半数（53.0%）を占めていた（第2-2-1表）。

第2-2-1表 中高年の自殺者数の推移

（単位：人）

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
全体	32,768	31,581	30,608	27,809	27,215	25,418	23,964	21,870	21,286	20,820	19,974
中高年	14,985	14,378	13,610	12,009	11,468	10,511	9,898	9,024	8,726	8,480	8,206

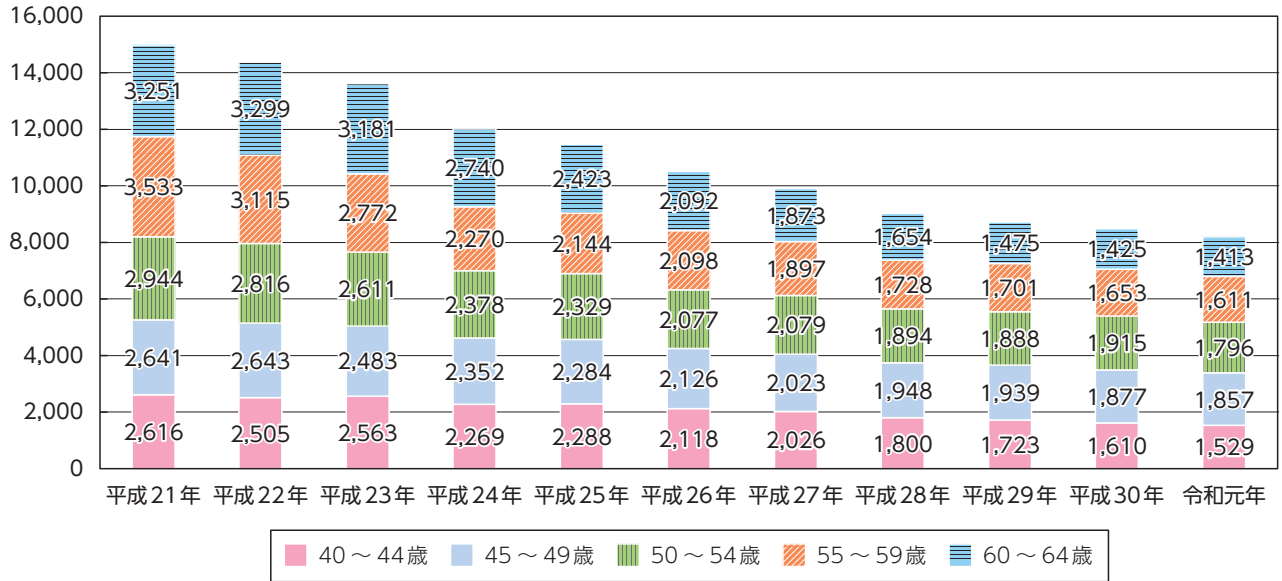
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

同様に、ピークである平成21年と令和元年の推移を中高年のうちの5階層でみると、40～44歳では41.6%減、45～49歳では30.0%減、50～54歳では39.0%減、55～59歳では54.5%減及び60～64歳では56.5%減となり、高年齢層での減少が大きい。特に、60～64歳の自殺者数は、平成21年では上から2番目に多い階層であったものが、27年以降、一番少ない階層となっている（第2-2-2図）。

1 推移を見るに当たっては、平成21年以降の自殺統計を用いている。なお、通常警察庁自殺統計等で公表されている自殺者数は、発見日（その年に発見された自殺者の数）を基にしている。ただし、本節以降の第2章では、自殺日を基に集計しているため、第1章と数値が異なることに留意していただきたい。

### 第2-2-2図 中高年の自殺者数の推移

(単位：人)



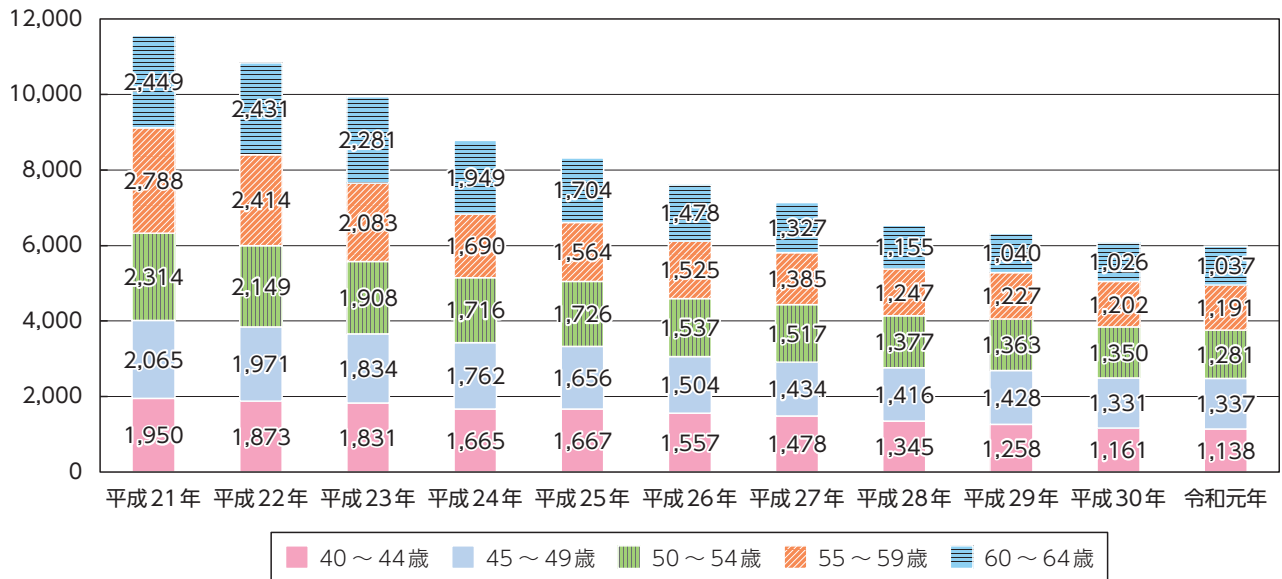
資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

男女別にみると、男性は、第2-2-2図と同じような推移をしている。5階層でも、55～59歳及び60～64歳の高年齢層での減少幅が大きい（第2-2-3図）。

女性は、平成23年まで増加してから減少に転じ、令和元年まで減少を続けている。45～49歳及び50～54歳での減少幅が小さい一方、60～64歳ではピーク時の平成23年の900人から、令和元年は約6割減の376人となり大幅な減少となっている。特に60～64歳では、平成21年は自殺者数が一番多い階層であったものの、29年以降一番少ない階層となっている（第2-2-4図）。

### 第2-2-3図 中高年（男）の自殺者数の推移

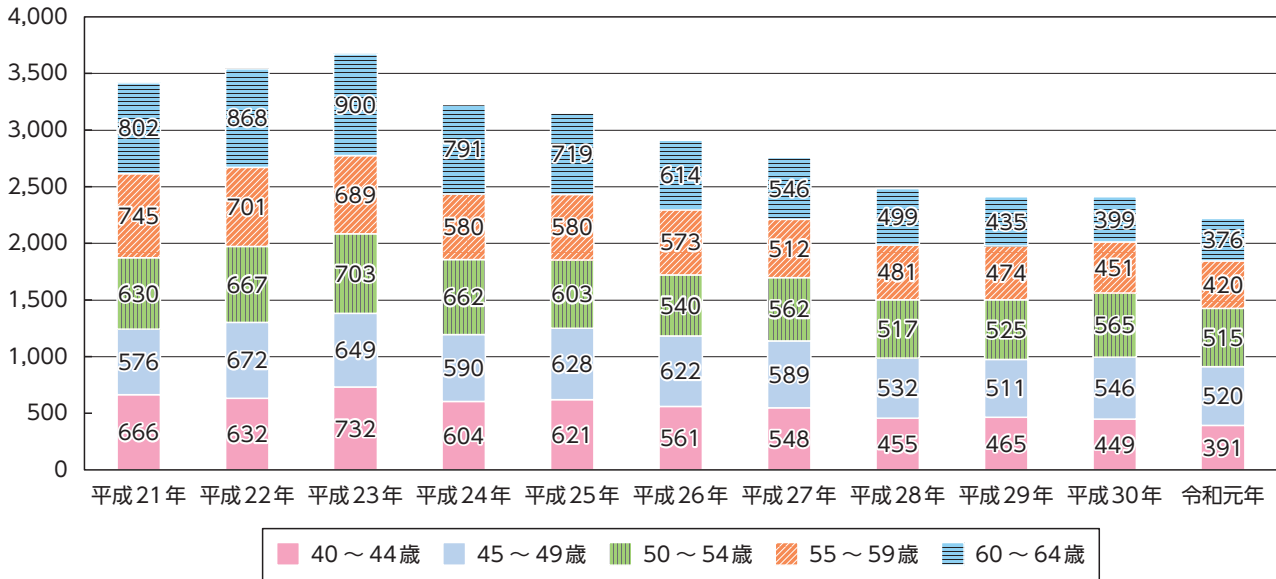
(単位：人)



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

## 第2-2-4図 中高年（女）の自殺者数の推移

(単位：人)



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

## (2) 自殺死亡率

平成21年以降の中高年の自殺死亡率（人口10万人当たり自殺者数。以下同じ。）の推移をみると、21年の35.1から令和元年は15.7ポイント低下の19.4となっている。全体の自殺死亡率も同様の傾向であり、平成21年の25.6から令和元年は9.8ポイント低下の15.8となっている。平成21年の中高年の自殺死亡率は全体の自殺死亡率と比べ9.5ポイント高くなっていたが、令和元年ではその差は3.6ポイントまで小さくなり、中高年において自殺死亡率の改善の大きいことがわかる（第2-2-5表）。

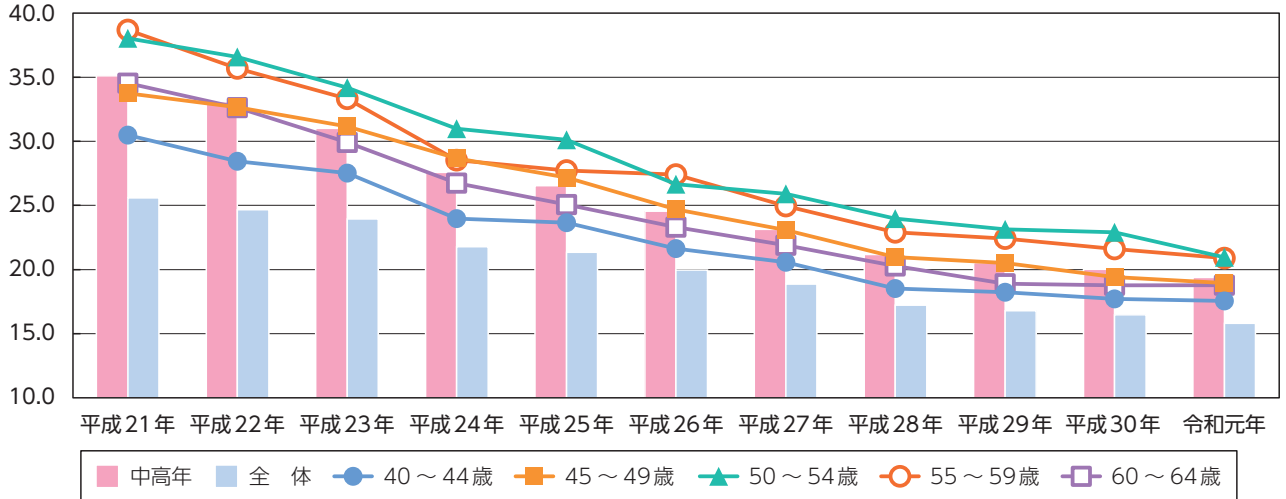
## 第2-2-5表 中高年の自殺死亡率の推移

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
全体	25.6	24.7	23.9	21.8	21.4	20.0	18.9	17.2	16.8	16.5	15.8
中高年	35.1	33.1	31.0	27.6	26.5	24.5	23.1	21.2	20.5	19.8	19.4

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

5階層で見ると、50歳代の2階層が中高年全体の数値より高く推移している。また、40～44歳は、中高年の中でも一段低く推移している（第2-2-6図）。

第2-2-6図 中高年の自殺死亡率の推移

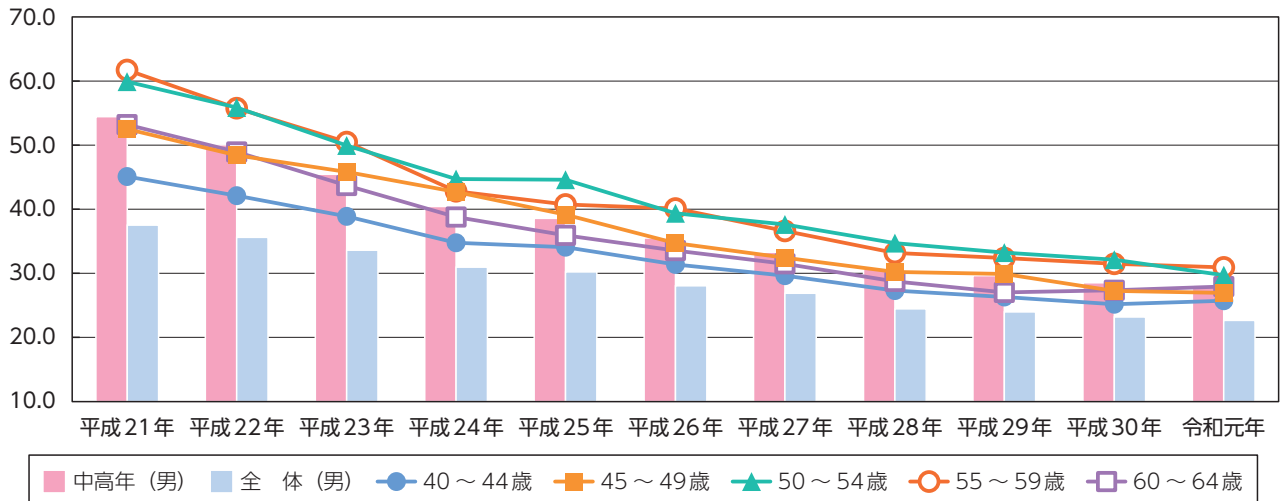


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

男女別にみると、男性は第2-2-6図と同じような推移をしている。平成21年の自殺死亡率は全体の自殺死亡率と比べ16.9ポイント高くなっていたが、令和元年ではその差は5.5ポイントまで小さくなり、男性の自殺死亡率の改善の大きいことがわかる（第2-2-7図）。

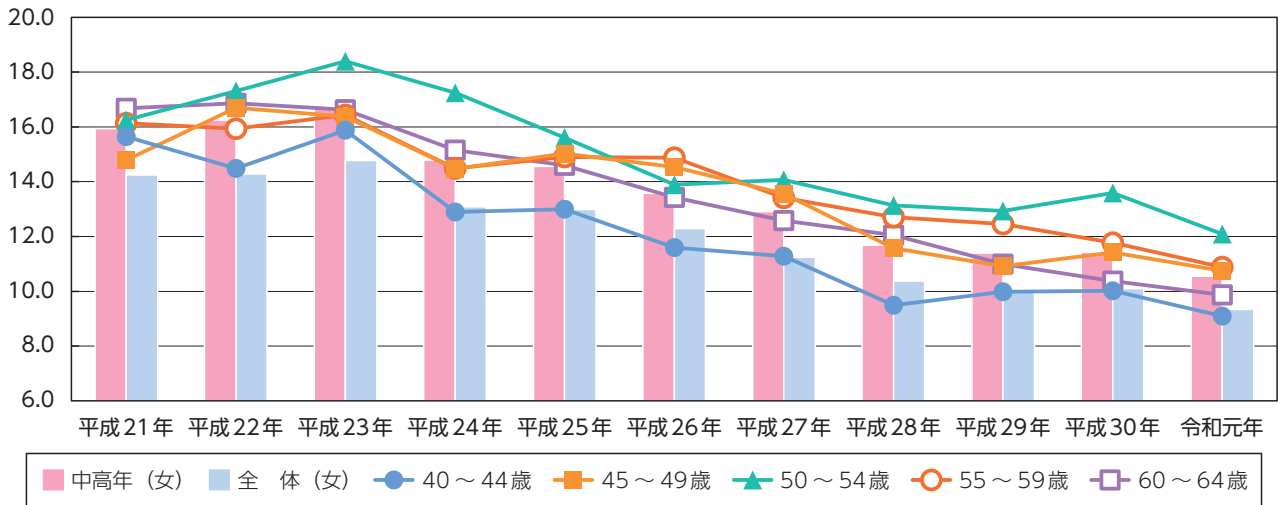
女性は、自殺者数の推移と同様に、平成23年まで上昇していたものの、24年以降は低下している。このうち、50～54歳は高い数値で推移しており、ここ2年は5区分の中で抜きん出た形となっている。60～64歳は、21年の段階では一番高い自殺死亡率（16.7）であったものが、令和元年では下から2番目に低い自殺死亡率（9.9）まで低下し、大きな改善となっている。また、40～44歳では、男性と同様に一番低い自殺死亡率で推移しており、女性全体の自殺死亡率と比較しても、これを下回る年が多い（第2-2-8図）。

第2-2-7図 中高年（男）の自殺死亡率の推移



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

第2-2-8図 中高年（女）の自殺死亡率の推移



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

## 2 中高年における自殺の原因・動機<sup>2</sup>について

中高年では、平成21年から令和元年において、自殺者のうち原因・動機が特定できる者の割合は平均して74.8%となり、同程度の割合で推移している（第2-2-9表）。

第2-2-9表 原因・動機特定の有無について（中高年）

（単位：%）

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	平成21年～令和元年平均
原因・動機特定自殺者数	74.7	75.0	74.6	74.7	74.5	75.4	74.6	74.8	75.3	75.0	74.0	74.8
原因・動機不詳自殺者数	25.3	25.0	25.4	25.3	25.5	24.6	25.4	25.2	24.7	25.0	26.0	25.2

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

平成21年以降の中高年の原因・動機の推移をみると、経済・生活問題は、自殺者数の減少に比して、急激な減少を見せており、令和元年は平成21年の約3分の1程度となっている。次いで、健康問題も、令和元年は平成21年より約4割減少している。一方、これら以外の原因・動機は、減少傾向にはあるものの、経済・生活問題や健康問題と比べて減少幅は小さく、また、ここ数年は、家庭問題は1,000人台前半、勤務問題は1,000～1,100人、その他は300人台後半、男女問題は200人台前半で、横ばいで推移している（第2-2-11表）。

2 自殺の原因・動機をみていくに当たっては、複数の原因・動機が重なり、自殺が生ずる場合の多いことに、留意が必要である。

第2-2-11表 中高年における原因・動機等の推移

(単位：人)

	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年
家庭問題	1,854	2,027	2,097	1,835	1,705	1,561	1,531	1,440	1,408	1,343	1,315
健康問題	6,401	6,506	6,093	5,516	5,416	5,137	4,790	4,297	4,214	4,077	3,736
経済・生活問題	5,689	4,974	4,189	3,337	2,836	2,458	2,355	2,069	1,961	1,977	1,942
勤務問題	1,321	1,407	1,354	1,258	1,224	1,169	1,075	1,037	1,066	1,071	1,060
男女問題	291	297	328	309	242	255	234	222	256	220	226
学校問題	1	0	3	5	0	1	1	0	2	0	1
その他	596	626	598	547	535	467	469	388	392	341	373
原因・動機 特定自殺者数	11,200	10,782	10,154	8,974	8,542	7,921	7,382	6,748	6,567	6,356	6,075
原因・動機 不詳自殺者数	3,785	3,596	3,456	3,035	2,926	2,590	2,516	2,276	2,159	2,124	2,131

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

原因・動機の小分類について、平成21年から令和元年までの総和に対して、原因・動機特定自殺者数の総和で計上割合を算出し、上位10位までを男女別5階層で整理してみた。

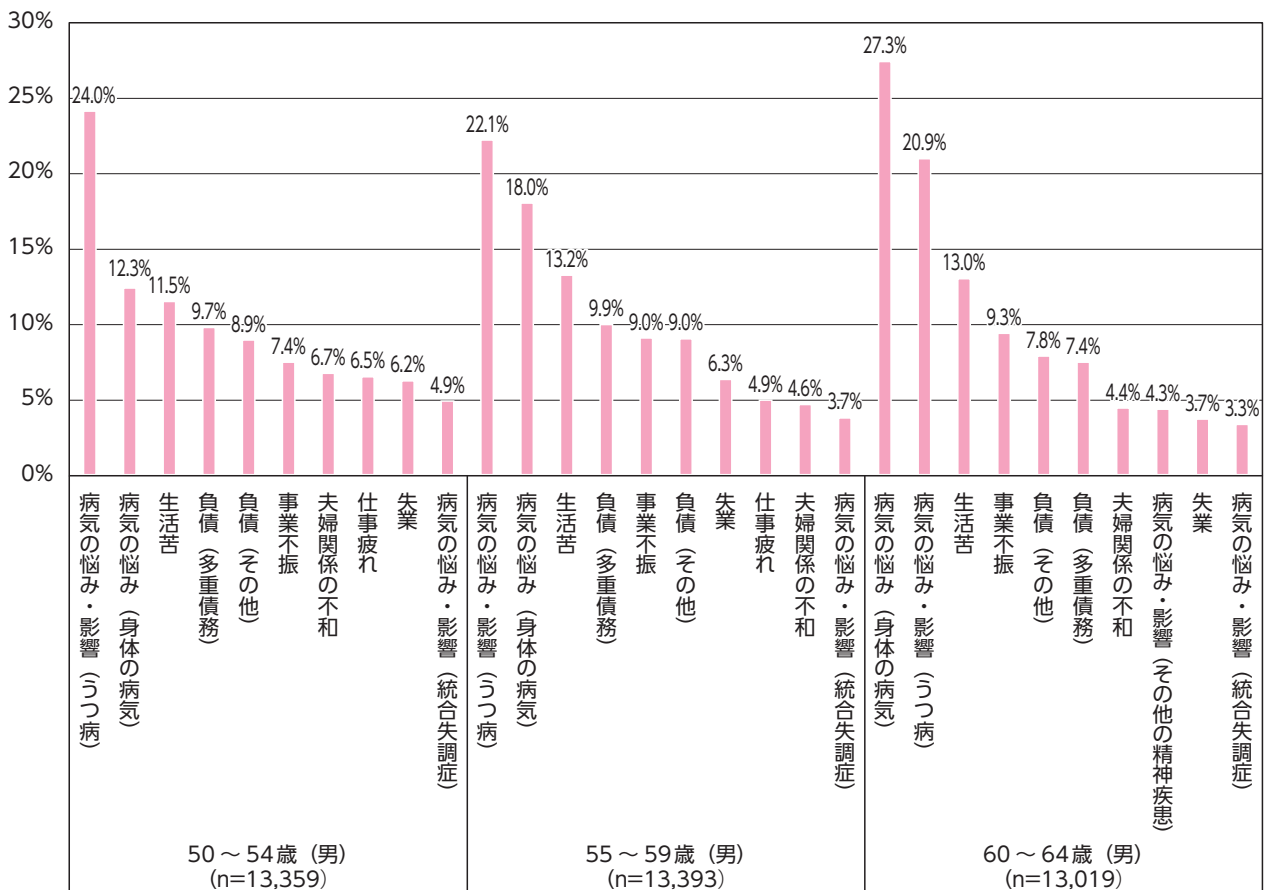
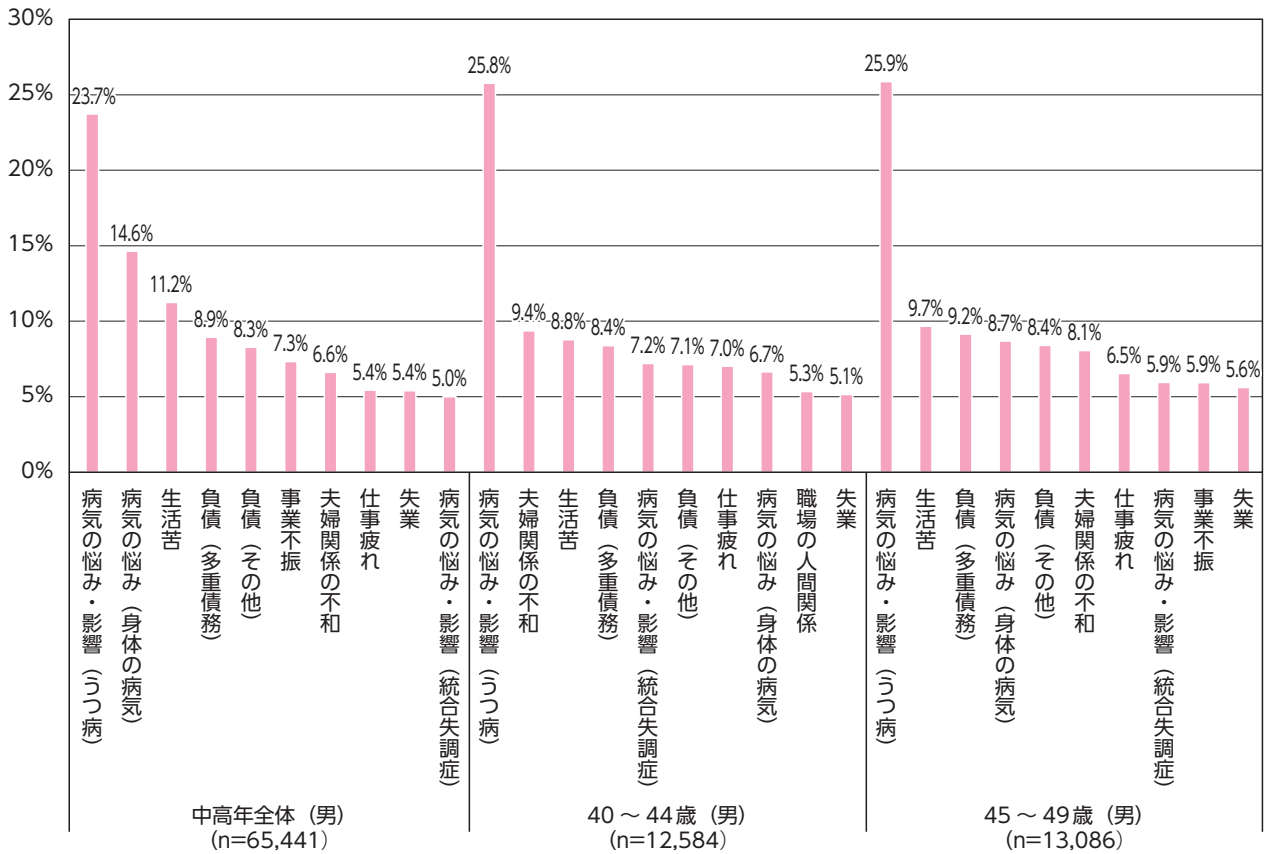
中高年男性全体では、第1位が病気の悩み・影響（うつ病）（以下「うつ病」という。）で23.7%、第2位が病気の悩み（身体の病気）（以下「身体の病気」という。）で14.6%、第3位が生活苦で11.2%、第4位が負債（多重債務）（以下「多重債務」という。）で8.9%、第5位が負債（その他）で8.3%となり、健康問題が上位を占めている。項目数では上位10位のうち、経済・生活問題が6項目、健康問題が3項目、家庭問題が1項目となり、経済・生活問題の多いことが男性の特徴といえる。

5階層で見ると、第1位は、60～64歳の身体の病気を除けば、うつ病となり、どの階層においても25%前後となっている。5階層で共通する項目は、夫婦関係の不和、身体の病気、うつ病、病気の悩み・影響（統合失調症）（以下「統合失調症」という。）、生活苦、多重債務、負債（その他）、失業となり、8項目となっている。

40～44歳では、第2位に夫婦関係の不和（9.4%）となり、家庭問題が上位に来ている。また、他の階層にはない職場の人間関係（5.3%）が入っている。45～49歳では、第2位に生活苦（9.7%）、第3位に多重債務（9.2%）と経済・生活問題が上位を連ねている。50歳代及び60～64歳では、第5位、第6位が事業不振（それぞれ7.4%、9.0%、9.3%）となっているのが特徴的といえる（第2-2-12図）。



第2-2-12図 中高年の原因・動機の計上割合（男）



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

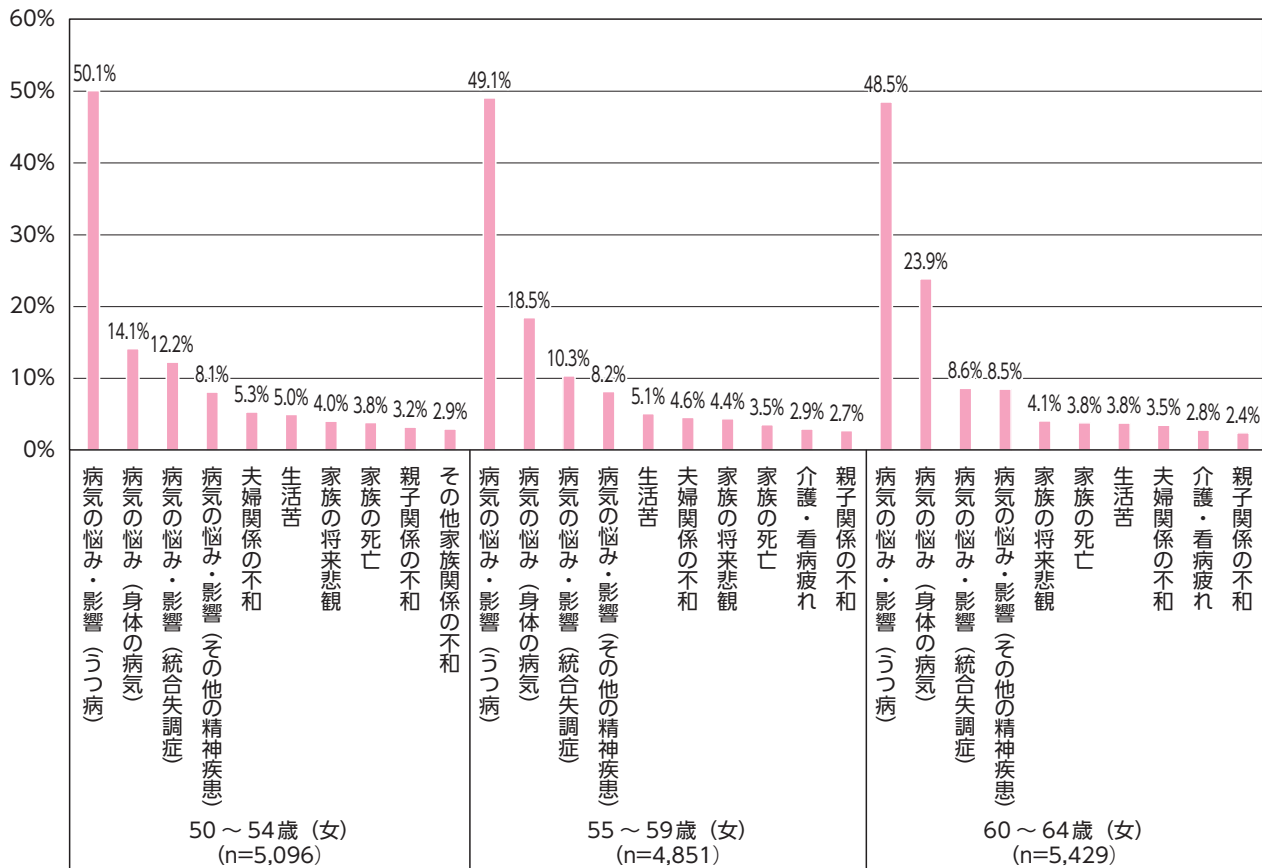
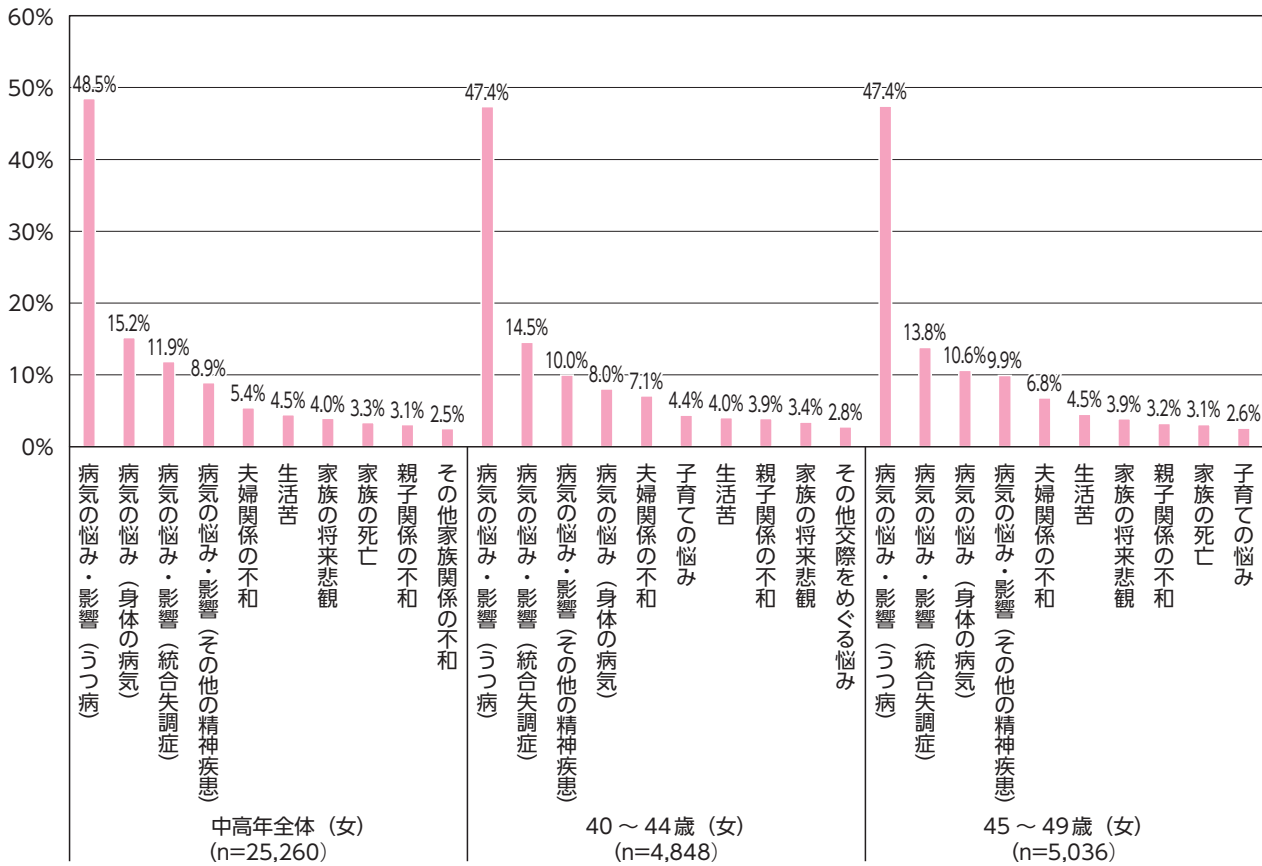
中高年女性全体では、第1位がうつ病で48.5%、第2位が身体の病気で15.2%、第3位が統合失調症で11.9%となり、第4位の病気の悩み・影響（その他の精神疾患）（以下「その他の精神疾患」という。）まで健康問題が上位を占めているが、項目数では上位10位のうち、家庭問題が5項目、健康問題が4項目、経済・生活問題が1項目となり、家庭問題の多いことが女性の特徴といえる。

5階層で見ると、上位4位までを上記の健康問題が占めているとともに、第1位のうつ病は約50%と過半を占める結果となっている。5階層で共通する項目は、親子関係の不和、夫婦関係の不和、家族の将来悲観、身体の病気、うつ病、統合失調症、その他の精神疾患、生活苦となり、8項目となっている。

健康問題の次に来るのが、40歳代及び50～54歳では、夫婦関係の不和（それぞれ7.1%、6.8%、5.3%）、55～59歳では、生活苦（5.1%）、60～64歳では、家族の将来悲観（4.1%）となっている。40歳代では、子育ての悩み（それぞれ4.4%、2.6%）、55～59歳及び60～64歳では、介護・看病疲れ（それぞれ2.9%、2.8%）が上位に入っており、年代の特徴が現れているといえる（第2-2-13図）。



第2-2-13図 中高年の原因・動機の計上割合（女）

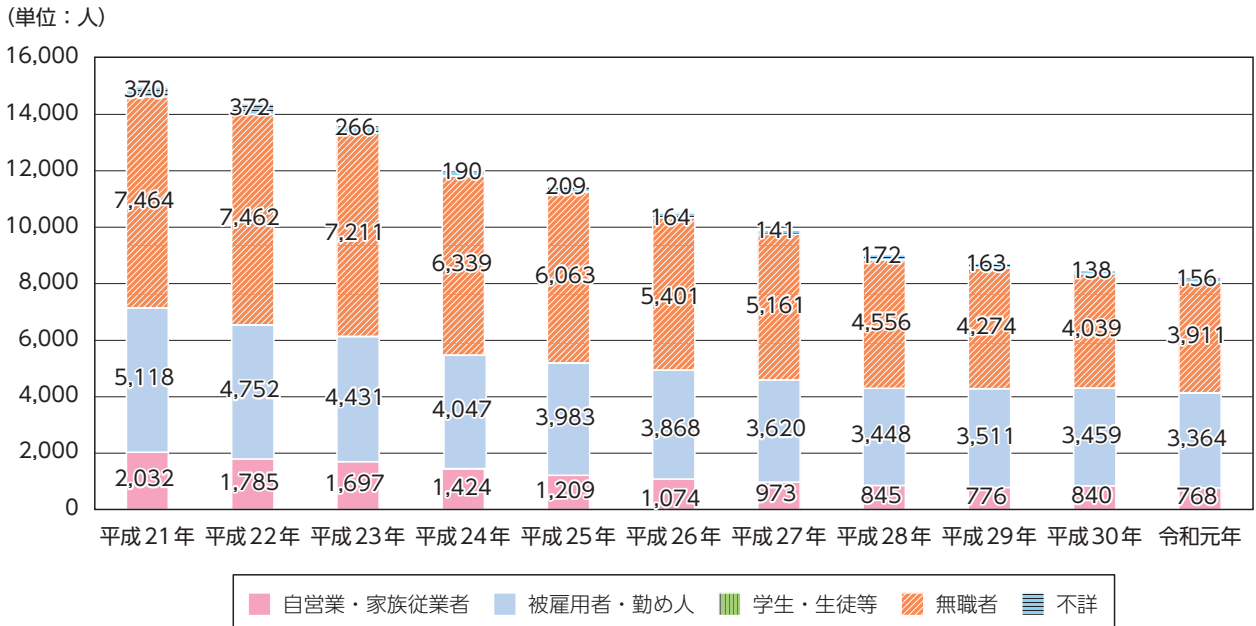


資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

### 3 中高年における自殺者の職業別について

平成21年以降の中高年における職業別（大分類）の自殺者数の推移をみると、10人未満で推移している学生・生徒等を除けば、無職者のみが一貫して減少している。自営業・家族従業者と被雇用者・勤め人の自殺者数は、減少してきているものの、ここ数年、それぞれ700～800人台、3,000人台半ばで、横ばいで推移している（第2-2-14図）。

第2-2-14図 中高年の職業別（大分類）自殺者数の推移



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

#### (1) 自営業・家族従業者

平成21年以降の自営業・家族従業者の自殺者数の推移をみると、21年の2,032人をピークに減少し、27年は21年の半数を下回る973人となり、28年以降は、700～800人台で推移している。

5階層で見ると、全ての階層において、21年をピークに減少傾向にあり、29年以降は100人台で推移している。特に、55～59歳及び60～64歳では、21年に585人、528人だったものが、令和元年には164人、166人となり、ピーク時の3分の1を下回っている。

男女比は約9割を男性が占め、男性は、平成21年の1,863人をピークに減少傾向にあり、26年に1,000人を切ると、28年以降は600～700人台で推移している（第2-2-16表）。

**第2-2-16表 自営業・家族従業者（中高年）における自殺者数の推移**

(単位：人)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
40～44歳	227	194	201	191	171	147	105	121	110	128	122
45～49歳	288	276	243	230	189	167	167	147	162	163	154
50～54歳	404	342	309	293	265	212	226	182	156	193	162
55～59歳	585	469	426	329	273	259	230	189	183	187	164
60～64歳	528	504	518	381	311	289	245	206	165	169	166
男	1,863	1,615	1,544	1,295	1,096	969	888	755	691	748	693
女	169	170	153	129	113	105	85	90	85	92	75
中高年計	2,032	1,785	1,697	1,424	1,209	1,074	973	845	776	840	768

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

自営業・家族従業者の5階層（男）において、平成21年における原因・動機上位5位の推移をみると、上位5位はほぼ経済・生活問題及び健康問題で占められ、事業不振、多重債務、負債（その他）及びうつ病が全ての階層に共通している。また、5階層すべてにおいて、第1位は事業不振となり、ピーク時の21年では、67人～186人であったものが、令和元年では、27人～39人と大幅な減少となっている。

40歳代では生活苦、50歳代及び60～64歳では身体の病気が上位に入ったことに階層の違いがみられる（第2-2-17表）。

**第2-2-17表 自営業・家族従業者（中高年：5階層（男））における原因・動機（上位5位）の推移**

(単位：人)

40～44歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
事業不振	67	61	55	54	40	24	24	21	22	22	27
負債（多重債務）	33	20	26	17	15	10	6	14	7	9	15
病気の悩み・影響（うつ病）	23	23	29	21	17	25	12	15	18	9	16
負債（その他）	18	21	16	20	10	15	6	6	10	11	9
夫婦関係の不和	16	16	17	13	13	11	6	11	9	12	9
生活苦	16	3	12	15	8	8	1	7	5	6	5

45～49歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
事業不振	96	83	77	72	43	26	35	27	38	36	29
負債（その他）	45	27	36	19	25	18	16	12	11	8	7
負債（多重債務）	42	42	29	30	20	11	18	19	20	17	23
病気の悩み・影響（うつ病）	41	28	27	35	25	26	20	13	15	18	12
生活苦	17	16	14	20	14	4	14	7	9	6	10

50～54歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
事業不振	146	104	96	84	68	58	61	34	37	44	32
負債（多重債務）	52	48	28	38	30	20	21	19	24	17	18
病気の悩み・影響（うつ病）	46	30	35	30	29	26	33	16	16	20	15
負債（その他）	45	45	33	35	33	21	22	19	10	12	17
病気の悩み（身体の病気）	24	36	30	30	21	16	12	12	14	17	16

55～59歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
事業不振	186	153	128	98	70	69	57	37	41	39	38
病気の悩み（身体の病気）	82	53	44	26	32	27	22	23	22	17	17
負債（多重債務）	77	61	58	39	23	21	24	17	22	17	17
負債（その他）	70	60	56	35	17	21	19	16	16	18	13
病気の悩み・影響（うつ病）	56	46	57	34	32	36	22	20	23	32	20

60～64歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
事業不振	180	172	159	97	80	55	40	49	22	35	39
病気の悩み（身体の病気）	91	102	76	60	38	45	35	32	23	17	26
負債（その他）	63	46	42	35	27	9	20	12	15	16	10
病気の悩み・影響（うつ病）	60	52	62	46	34	38	40	28	19	23	14
負債（多重債務）	46	49	47	30	28	31	19	24	16	23	16

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

## (2) 被雇用者・勤め人

平成21年以降の被雇用者・勤め人の自殺者数の推移をみると、21年の5,118人をピークに減少傾向にあり、令和元年には3,364人となった。

5階層で見ると、40～44歳は、平成26年以降減少し、ピークである23年の1,069人から令和元年の731人まで減少している。他の4階層では、ピークである平成21年からは減少しているものの、ここ数年、45～49歳では800人台、50～54歳では700人台後半から800人台前半、55～59歳では600人台前半から半ば、60～64歳では300人台後半で、横ばいで推移している。

男女比では、8～9割を男性が占め、男性は、21年の4,502人をピークに減少傾向にあり、28年以降は2,000人台後半で推移している（第2-2-19表）。

**第2-2-19表 被雇用者・勤め人（中高年）における自殺者数の推移**

(単位：人)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
40～44歳	1,050	995	1,069	935	1,011	953	900	852	828	751	731
45～49歳	1,119	1,070	995	985	924	880	848	816	899	870	835
50～54歳	1,132	1,084	974	874	899	881	813	756	804	795	772
55～59歳	1,100	965	826	735	705	721	645	630	612	655	631
60～64歳	717	638	567	518	444	433	414	394	368	388	395
男	4,502	4,154	3,789	3,429	3,375	3,273	3,057	2,922	2,950	2,834	2,798
女	616	598	642	618	608	595	563	526	561	625	566
中高年計	5,118	4,752	4,431	4,047	3,983	3,868	3,620	3,448	3,511	3,459	3,364

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

被雇用者・勤め人の5階層（男）において、平成21年における原因・動機上位5位の推移をみると、40歳代及び50歳代において、第1位はうつ病となっており、減少してきているものの100人台で推移している。また、40歳代及び50歳代では、令和元年において、勤務問題の職場の人間関係及び仕事疲れ（ともに参考表示）が上位5位に入っている。

各階層で数値が減少している項目が多い中で、勤務問題は、横ばいで推移している。

40歳代では夫婦関係の不和、55～59歳及び60～64歳では生活苦が上位に入ったことに階層の違いがみられる（第2-2-20表）。

第2-2-20表 被雇用者・勤め人（中高年：5階層（男））における原因・動機（上位5位）の推移

(単位：人)

40～44歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み・影響（うつ病）	173	171	168	145	146	166	148	134	128	113	105
負債（多重債務）	102	73	70	53	50	45	53	41	32	45	55
夫婦関係の不和	82	82	91	82	72	72	81	67	60	62	58
負債（その他）	75	64	50	52	53	40	42	39	36	32	36
仕事疲れ	68	92	71	67	72	92	78	71	65	50	62
(参考) 職場の人間関係	51	59	64	64	54	49	47	52	52	41	46

45～49歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み・影響（うつ病）	176	188	164	188	142	156	166	130	138	145	125
負債（多重債務）	104	95	50	55	42	53	41	34	45	52	47
負債（その他）	101	75	59	56	48	46	34	39	39	39	36
仕事疲れ	75	82	74	70	81	69	69	61	76	62	55
夫婦関係の不和	67	68	79	66	66	54	54	59	72	52	69
(参考) 職場の人間関係	44	52	58	62	46	44	44	39	56	49	56

50～54歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み・影響（うつ病）	155	192	148	136	160	174	135	126	134	119	108
負債（多重債務）	128	77	69	37	53	51	44	40	41	49	45
病気の悩み（身体の病気）	93	82	64	59	66	65	58	33	55	34	41
負債（その他）	89	76	52	42	45	35	42	38	32	32	36
仕事疲れ	75	75	75	77	72	69	67	58	51	67	66
(参考) 職場の人間関係	38	46	38	31	41	37	31	37	45	39	52

55～59歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み・影響（うつ病）	143	148	117	99	103	114	112	103	108	107	110
病気の悩み（身体の病気）	134	124	81	69	60	65	57	55	62	58	56
負債（多重債務）	120	83	45	41	42	30	38	37	44	41	43
生活苦	87	60	48	41	27	36	34	35	25	34	21
負債（その他）	77	75	55	37	45	48	31	24	23	18	35
(参考) 仕事疲れ	50	51	55	55	41	54	55	52	39	46	50

60～64歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み（身体の病気）	102	90	77	71	74	66	45	45	65	58	43
病気の悩み・影響（うつ病）	86	70	56	53	56	52	45	56	49	45	54
負債（多重債務）	58	48	44	36	17	29	22	21	24	18	28
負債（その他）	56	40	36	37	18	18	25	24	23	19	20
生活苦	55	52	36	32	22	23	30	31	31	25	21

注）（参考）は、平成21年には上位5位に入っていないが、令和元年では上位5位に入っている原因・動機。

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

### (3) 無職者

平成21年以降の無職者の自殺者数の推移をみると、21年の7,464人をピークに減少を続け、令和元年には3,911人となっている（第2-2-22表）。

**第2-2-22表 無職者（中高年）における自殺者数の推移**

（単位：人）

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
主婦	1,339	1,382	1,423	1,150	1,137	964	887	812	757	651	614
失業者	1,533	1,305	1,207	905	756	663	641	550	445	468	449
利子・配当・ 家賃等生活者	29	25	36	25	34	30	30	24	20	25	21
年金・雇用 保険等生活者	906	1,004	983	1,098	1,073	959	828	762	728	699	612
浮浪者	47	39	32	30	18	19	16	18	16	13	11
その他の 無職者	3,610	3,707	3,530	3,131	3,045	2,766	2,759	2,390	2,308	2,183	2,204
計（中高年）	7,464	7,462	7,211	6,339	6,063	5,401	5,161	4,556	4,274	4,039	3,911

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

以下では、無職者のうち、主婦、失業者、年金・雇用保険等生活者及びその他無職者についてみてみる。

#### ア 主婦

平成21年以降の主婦の自殺者数の推移をみると、23年の1,423人をピークに減少を続け、令和元年には614人となり、半数以下となっている。

5階層でみると、すべての階層で大きく減少しており、なかでも40～44歳及び60～64歳ではピーク時の平成23年から令和元年では6割以上減少している（第2-2-24表）。

**第2-2-24表 主婦（中高年）における自殺者数の推移**

（単位：人）

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
40～44歳	213	188	219	172	190	165	148	124	116	95	78
45～49歳	222	244	242	191	214	188	167	151	124	134	125
50～54歳	256	275	280	245	230	182	199	184	166	171	143
55～59歳	323	319	313	267	246	211	197	176	179	135	143
60～64歳	325	356	369	275	257	218	176	177	172	116	125
中高年計	1,339	1,382	1,423	1,150	1,137	964	887	812	757	651	614

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成



主婦の5階層において、平成21年における原因・動機上位5位の推移をみると、21年から令和元年の期間において、すべての階層で上位に健康問題が多くを占めている一方、夫婦関係の不和も共通している。40～44歳では他の階層と違い、平成21年の第2位が夫婦関係の不和であり、令和元年でも同様となっている。なお、令和元年では、すべての階層で家庭問題が上位5位（表中の参考）に入ってきている（第2-2-25表）。

第2-2-25表 主婦（中年：5階層）における原因・動機（上位5位）の推移

（単位：人）

40～44歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み・影響（うつ病）	97	88	99	72	82	71	57	56	48	35	33
夫婦関係の不和	26	14	18	21	17	7	20	11	11	6	12
病気の悩み・影響（統合失調症）	22	20	19	17	14	25	13	10	15	6	7
病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	22	17	8	5	21	7	16	7	13	11	4
病気の悩み（身体の病気）	15	12	15	13	8	14	6	11	10	9	7

45～49歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み・影響（うつ病）	112	110	107	81	92	99	63	62	54	53	49
病気の悩み（身体の病気）	21	19	24	19	21	26	15	14	17	10	9
病気の悩み・影響（統合失調症）	20	16	20	17	25	13	15	15	15	12	12
夫婦関係の不和	15	23	16	16	15	16	18	12	10	12	8
病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	10	16	14	8	19	12	13	18	12	12	13
（参考）子育ての悩み	2	5	7	5	5	8	12	8	1	10	8

50～54歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み・影響（うつ病）	105	138	138	123	93	89	103	80	76	64	65
病気の悩み（身体の病気）	32	35	32	31	27	24	21	22	22	19	16
病気の悩み・影響（統合失調症）	20	19	25	19	20	17	20	14	8	15	8
病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	15	15	6	11	16	8	14	16	14	17	19
夫婦関係の不和	12	13	13	7	11	11	9	14	8	13	12

55～59歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み・影響（うつ病）	152	160	137	120	113	85	78	91	74	70	52
病気の悩み（身体の病気）	36	49	61	59	52	44	41	27	24	24	26
病気の悩み・影響（統合失調症）	29	21	22	19	17	19	10	14	10	10	10
病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	20	16	16	16	18	13	16	10	20	6	13
夫婦関係の不和	15	15	11	14	9	10	7	6	9	8	2
（参考）家族の将来悲観	10	9	13	9	5	8	2	6	7	5	10

60～64歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み・影響（うつ病）	132	166	163	128	105	81	88	81	84	54	50
病気の悩み（身体の病気）	79	68	88	53	56	50	38	33	31	22	19
病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	22	25	19	14	13	20	10	11	18	10	11
夫婦関係の不和	14	12	8	4	10	8	2	8	5	7	3
家族の将来悲観	11	12	17	13	4	6	3	6	4	9	4
病気の悩み・影響（統合失調症）	11	20	17	16	13	17	13	11	7	6	11
（参考）家族の死亡	2	9	4	5	6	7	4	4	6	1	4

注）（参考）は、平成21年には上位5位に入っていないが、令和元年では上位5位に入っている原因・動機。

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

## イ 失業者

平成21年以降の失業者の自殺者数の推移をみると、21年の1,533人をピークに減少傾向にあり、令和元年は449人で、約7割減の大幅な減少となっている。

5階層でみると、すべての階層で平成21年のピーク時から減少傾向にあり、令和元年はピーク時の6～8割減となっている。

男女比では、約9割を男性が占め、男性は、平成21年の1,455人をピークに減少傾向にあり、29年以降は400～410人台で推移し、ピーク時の3割弱となっている（第2-2-27表）。

**第2-2-27表 失業者（中高年）における自殺者数の推移**

(単位：人)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
40～44歳	322	263	265	208	142	139	163	120	91	100	75
45～49歳	297	262	245	233	172	165	140	137	101	115	114
50～54歳	329	279	262	184	174	167	148	128	104	113	124
55～59歳	399	336	295	189	185	132	147	108	109	95	87
60～64歳	186	165	140	91	83	60	43	57	40	45	49
男	1,455	1,220	1,109	832	709	609	574	504	400	414	402
女	78	85	98	73	47	54	67	46	45	54	47
中高年計	1,533	1,305	1,207	905	756	663	641	550	445	468	449

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

失業者の5階層（男）において、平成21年における原因・動機上位5位の推移をみると、21年ではすべての階層で失業が第1位となったものの、令和元年では、45～49歳及び55～59歳では失業が、40～44歳ではうつ病、50～54歳では生活苦、60～64歳ではうつ病及び生活苦が第1位となり、階層毎に違いがみられる。上位には、失業、生活苦及び多重債務等の経済・生活問題が多く入っている（第2-2-28表）。

第2-2-28表 失業者（中高年：5階層（男））における原因・動機（上位5位）の推移

（単位：人）

40～44歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
失業	100	77	66	44	32	24	42	25	16	11	8
病気の悩み・影響（うつ病）	65	44	42	27	17	25	29	19	17	20	11
生活苦	30	24	31	17	19	14	21	10	7	7	10
負債（多重債務）	27	25	9	4	6	8	7	5	1	5	8
負債（その他）	19	10	9	11	4	5	9	4	5	5	3
（参考）夫婦関係の不和	11	12	16	6	10	9	8	7	8	4	5

45～49歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
失業	91	85	71	63	45	27	28	26	17	16	22
病気の悩み・影響（うつ病）	42	41	44	25	27	23	26	22	21	26	20
生活苦	39	27	29	27	18	18	23	15	17	14	18
負債（多重債務）	29	22	20	11	4	9	3	8	6	8	6
負債（その他）	23	16	12	11	13	9	5	10	5	5	7
（参考）病気の悩み（身体の病気）	17	18	16	16	12	10	4	10	3	9	11

50～54歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
失業	109	106	88	53	35	42	30	27	24	23	20
生活苦	72	38	36	26	24	18	22	15	14	10	23
病気の悩み（身体の病気）	40	22	21	18	7	12	14	1	7	7	10
病気の悩み・影響（うつ病）	34	50	34	26	22	25	23	23	16	20	17
負債（多重債務）	27	18	20	9	12	8	8	7	4	8	9

55～59歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
失業	143	118	78	34	42	28	38	32	22	22	19
生活苦	72	48	52	38	33	14	30	21	13	17	16
病気の悩み（身体の病気）	49	37	34	19	21	13	11	11	7	7	12
負債（多重債務）	38	27	12	9	8	7	7	4	6	8	8
負債（その他）	31	29	19	10	11	15	9	5	4	5	3
（参考）病気の悩み・影響（うつ病）	28	30	40	13	21	21	15	17	16	14	14

60～64歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
失業	64	56	40	23	10	13	11	13	10	10	5
生活苦	43	37	24	15	11	12	8	15	7	10	8
病気の悩み（身体の病気）	24	25	15	18	12	8	6	5	4	4	6
負債（その他）	20	8	13	8	12	7	5	2	1	3	0
病気の悩み・影響（うつ病）	17	9	14	4	8	7	5	8	5	6	8
（参考）負債（多重債務）	11	13	7	8	0	2	2	4	5	4	4

注）（参考）は、平成21年には上位5位に入っていないが、令和元年では上位5位に入っている原因・動機。

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

### ウ 年金・雇用保険等生活者

平成21年以降の年金・雇用保険等生活者の自殺者数の推移をみると、24年の1,098人をピークに減少を続け、令和元年は612人となっている。

5階層でみると、60～64歳が最も多く、平成21年では3人に2人の割合であったが、自殺者数が半減したことによって、近年では4割強となっている。それ以外の4階層では、自殺者数は横ばいとなっている。

男女比では、6～7割を男性が占めている（第2-2-30表）。

**第2-2-30表 年金・雇用保険等生活者（中高年）における自殺者数の推移**

（単位：人）

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
40～44歳	61	83	81	80	93	103	71	85	69	92	72
45～49歳	52	75	89	99	111	99	80	104	116	97	88
50～54歳	72	94	85	114	108	77	97	90	111	114	82
55～59歳	118	124	130	130	127	138	98	119	116	102	99
60～64歳	603	628	598	675	634	542	482	364	316	294	271
男	657	699	672	762	731	649	554	493	464	437	390
女	249	305	311	336	342	310	274	269	264	262	222
中高年計	906	1,004	983	1,098	1,073	959	828	762	728	699	612

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

年金・雇用保険等生活者で多くを占める60～64歳において、平成21年における原因・動機上位5位の推移を男女別にみると、男性では身体の病気が30年まで第1位であり、令和元年はうつ病となっている。平成21年では、健康問題、経済・生活問題及び家庭問題と多岐にわたっていたが、令和元年では上位のうち4つを健康問題が占めていた。

女性では、この期間上位の多くを健康問題が占めている（第2-2-31表）。

**第2-2-31表 年金・雇用保険等生活者（中高年：60～64歳（男女））における原因・動機（上位5位）の推移**

（単位：人）

60～64歳（男）	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み（身体の病気）	126	125	111	153	107	109	84	68	50	57	41
病気の悩み・影響（うつ病）	94	105	88	103	80	90	56	52	45	28	45
生活苦	37	41	32	37	50	25	26	17	17	15	24
負債（その他）	28	17	22	10	14	10	4	4	9	9	4
夫婦関係の不和	19	16	18	19	14	8	3	11	5	3	4
病気の悩み・影響 （統合失調症）	19	17	22	24	21	17	15	8	13	11	10
（参考）病気の悩み・影響 （その他の精神疾患）	9	14	18	20	22	20	17	13	17	16	10

60～64歳（女）	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み・影響（うつ病）	57	73	68	73	86	81	54	40	47	43	33
病気の悩み（身体の病気）	37	43	35	43	40	31	30	21	16	16	5
病気の悩み・影響 （統合失調症）	17	16	19	20	20	17	16	16	8	11	10
病気の悩み・影響 （その他の精神疾患）	12	14	11	11	15	10	14	6	7	5	6
看護・看病疲れ	6	4	4	2	2	4	4	5	2	4	3
（参考）家族の将来悲観	5	3	5	5	4	7	4	4	3	1	6
（参考）家族の死亡	2	5	6	6	4	3	6	7	5	4	5

注）（参考）は、平成21年には上位5位に入っていないが、令和元年では上位5位に入っている原因・動機。

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

## エ その他の無職者

平成21年以降のその他の無職者の自殺者数の推移をみると、22年の3,707人をピークに減少を続けたが、ここ数年は2,000人台前半で、横ばいで推移している。

5階層で見ると、55～59歳及び60～64歳ではピーク時の半数以下へと大きく減少している中で、45～49歳の減少幅は小さいものとなった。

男女比では、約7割を男性が占めている（第2-2-33表）。

第2-2-33表 その他の無職者（中高年）における自殺者数の推移

(単位：人)

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
40～44歳	669	699	668	643	633	568	601	454	467	413	417
45～49歳	593	644	621	567	612	586	579	553	498	455	495
50～54歳	652	657	640	610	601	516	557	509	504	484	472
55～59歳	906	812	718	568	568	587	541	472	458	447	449
60～64歳	790	895	883	743	631	509	481	402	381	384	371
男	2,697	2,753	2,536	2,242	2,173	1,905	1,910	1,680	1,639	1,488	1,532
女	913	954	994	889	872	861	849	710	669	695	672
中高年計	3,610	3,707	3,530	3,131	3,045	2,766	2,759	2,390	2,308	2,183	2,204

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

その他の無職者において、平成21年における原因・動機上位5位の推移をみると、21年では40歳代及び50歳代ではうつ病、60～64歳では身体の病気が第1位となっている。令和元年では、すべての階層でうつ病が第1位となっている。

すべての階層で健康問題が上位の多くを占めており、健康問題以外では生活苦等の経済・生活問題が入っている（第2-2-34表）。

第2-2-34表 その他の無職者（中高年：5階層）における原因・動機（上位5位）の推移

(単位：人)

40～44歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み・影響（うつ病）	205	190	191	188	161	160	171	109	110	106	110
病気の悩み・影響（統合失調症）	96	79	103	90	83	81	91	68	68	61	49
生活苦	49	60	38	35	41	41	36	35	27	31	27
病気の悩み（身体の病気）	43	59	29	46	35	44	38	27	34	31	28
病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	41	34	30	40	35	41	48	48	46	28	26

45～49歳	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
病気の悩み・影響（うつ病）	148	175	145	138	177	148	164	148	104	127	116
病気の悩み・影響（統合失調症）	69	76	62	55	75	68	71	83	76	55	58
病気の悩み（身体の病気）	48	63	49	52	57	54	51	51	42	31	46
生活苦	46	60	56	55	48	37	48	43	43	40	35
病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	33	36	39	33	35	40	47	46	28	41	50



50～54歳	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年
病気の悩み・影響（うつ病）	135	154	152	156	160	139	137	131	108	135	122
病気の悩み（身体の病気）	82	83	58	62	69	57	62	50	63	55	43
生活苦	74	70	56	56	69	47	49	47	43	44	49
病気の悩み・影響 （統合失調症）	57	65	67	51	55	59	62	57	68	52	41
負債（その他）	42	23	29	18	17	17	15	17	15	19	22
（参考）病気の悩み・影響 （その他の精神疾患）	26	22	29	24	31	26	37	28	32	31	36

55～59歳	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年
病気の悩み・影響（うつ病）	199	170	144	129	140	136	131	120	120	103	95
病気の悩み（身体の病気）	155	132	93	88	92	75	82	78	66	63	52
生活苦	109	86	90	69	62	52	49	58	50	52	42
病気の悩み・影響 （統合失調症）	55	59	40	37	35	55	35	24	29	39	30
負債（その他）	43	36	27	21	21	17	23	14	15	14	10
（参考）病気の悩み・影響 （その他の精神疾患）	26	25	26	20	30	28	29	25	24	30	33

60～64歳	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年
病気の悩み（身体の病気）	181	198	192	162	149	100	91	73	71	72	58
病気の悩み・影響（うつ病）	152	168	184	168	137	88	100	70	89	82	75
生活苦	69	90	83	71	66	51	54	39	32	41	33
病気の悩み・影響 （統合失調症）	34	33	49	36	26	27	21	24	24	22	23
負債（その他）	30	35	33	15	11	20	17	6	15	13	11
（参考）病気の悩み・影響 （その他の精神疾患）	22	30	31	33	31	29	31	32	19	18	21

注）（参考）は、平成21年には上位5位に入っていないが、令和元年では上位5位に入っている原因・動機。

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成